

2020 年度 第 4 回関私教協幹事校会議事録

1. 日時 2021 年 1 月 25 日（月）18：30～20：21

2. 形態 Zoom 会議

3. 出席者

【幹事】山崎 準二（学習院大学・事務局長）、児玉 佳一（大東文化大学・事務局次長）、
松田 哲（流通経済大学・事務局次長）、齋藤 智志、渡辺 恵（杏林大学）、高瀬 幸恵、
石黒 康夫（桜美林大学）、鈴木 隆弘（高千穂大学）、小澤 貴史、戸川 点、早川 信一、
保坂 芳男（拓殖大学）、下田 好行（東洋大学）、岡明 秀忠、鞍馬 裕美（明治学院大学）、
鈴木 芳明（跡見学園女子大学）、森 慎二（鎌倉女子大学）、片岡 祥二、鈴木 美岐子
（共栄大学）、佐々木 竜太（清和大学短期大学部）

【事務担当】兼重 淑恵（学習院大学）

【オブザーバー】眞田 克典、大島 真夫、勝山 洋美、常盤 朋子（東京理科大学）、山本 智子
（国立音楽大学）、齋藤 史夫（東京家政学院大学）、長嶺 宏作（帝京科学大学）、
瀬川 大（日本女子体育大学）、吉田 真理子、伊藤 民子、松本 知久、西村 志乃
（洗足学園音楽大学）

4. 協議

〔報告事項〕

（1）研究部の活動について

- ・第 1 部会：「新型コロナウイルスによる教育実習への影響に関するアンケート調査」を実施中であり、集計の上、2 月中には部会員に報告する予定。
- ・第 3 部会：2 月 9 日に新部会員を迎えての顔合わせ・情報交換会を Zoom にて開催する予定。テーマは、「コロナ禍における教職カリキュラムの課題～実践力形成を目的とした科目の運営、教育委員会との連携を中心に～」である。
- ・第 4 部会：2 月下旬または 3 月上旬に各大学の情報交換と討議を中心に第 3 回部会の開催を計画。テーマは、「コロナ禍における教育実習の対応について」である。
- ・第 5 部会：12 月 23 日に第 3 回部会を開催した。千葉県教育員会の担当者を招いて、「今年度の教員採用試験の現状と課題」というテーマで講演を受けた後、質疑応答、その後各大学の教員採用試験の状況について情報交換と討議を行った。
- ・第 6 部会：ハラスメント・ガイドラインのデータを集め、検討中である。
- ・第 7 部会：1 月 26 日にオンラインで部会開催し、各大学の対応等を情報交換・討議する予定。テーマは、「各大学のコロナ禍対応～教育実習・介護等体験を中心に～」である。

○地区の活動について

- ・千葉・茨城地域部会：1 月 28 日に第 2 回研究会をオンラインで開催予定。「道徳教育の研究」というテーマで講演を受けた後、セッションで各大学に分かれて情報交換・討議を行う予定。
- ・神奈川・山梨地域部会：2 月 27 日に研究会を Zoom にて開催予定。第 1 部は関私教協の活動報告を行い、第 2 部として、「GIGA スクール構想を踏まえた今後の教員養成～教科教育法の授業実践を例に～」をテーマに、神奈川工科大学、鎌倉女子大学より事例発表後、情報交換・

討議を行う予定である。

- ・北部地域部会：2月下旬に第2回目研究会をZoomにて開催予定。現在、「今年度、対面式授業実施にあたって留意したこと」、「実技・実験系科目の実施方法について」、「来年度の対面授業の実施予定について」、「今後、北部地域部会で取り上げて欲しい活動」等の内容でアンケート調査を実施中。

(2) 2020年度 研究懇話会報告について

岡明研究部長より、初めての遠隔方式による開催であったが、事前登録者数109名、75校、当日参加者数97名、70校で、盛況のうちに無事終了できたこと、全私教協から全国的調査結果の報告を受け、全国的な状況を把握するとともに、引続き、関私教協会員校6校からの事例報告によって、大学ごとの地域・規模・免許教科等の違いによる独自の問題などが把握できたこと、ブレイクアウトルーム形式によるグループディスカッションも進行役幹事からの報告に基づき、充実した内容であったこと、当日資料については、12月に事務局から各加盟校に配付済であること等が述べられた。詳細については、今後、次年度発行の会報に掲載される予定である。また、運営に協力の幹事および参加された会員に対しての謝辞とともに、研究懇話会の内容を今後の教職課程運営へと活用願いたい旨、あわせて述べられた。

引続き、児玉事務局次長より、Zoomのホストを担当した経験から、事前登録はしていたが、当日に入室できない方が10名程度出てしまったこと、その理由は確定できないが、事前登録時と異なったアカウントで入室しようとしたからではないかと推測されること、メールで対応しようとしたがホストのみでは限界があったこと、また、当日参加者をブレイクアウトルームに配分しようとするにも対応がスムーズにできなかったこと、このような点を考慮し、今後同様の開催形態を計画する際には、ヘルプ・ディスクの増設等、事務局レベルでのサポートが必要であると思われること等の報告があり、共有された。

(3) 会報の編集について

森広報部長より、現在『会報』の編集作業中であるが、原稿もすべて集まり、順調に進んでいることが報告された。次号については、『87・88合併号』としたいこと、今年度は2月の発行としたいことの提案があり、了承された。

(4) 全私教協 2020年度第3回理事会報告について

松田事務局次長より、資料に基づき、文書審議により行われた第3回理事会の報告があった。12月12日の研究交流集会の開催と同日に2020年度定時社員総会がオンラインにより開催され、議案はすべて承認されたこと、今後の予定として、5月22日に2021年度定時社員総会及び第40回研究大会がオンライン形式によって開催予定であること、11月28日に研究交流集会在開催予定であること等の報告がなされた。また、次回の第4回理事会は、3月20日にオンラインで開催予定であることがあわせて報告された。

(5) 全私教協 2020年度「研究交流集会」報告について

山崎事務局長より、12月12日の研究集会は386名の参加者があり、プログラムどおりに

開催されたこと、文部科学省総合教育政策局教育人材政策課室長による基調講演「文部科学省における教員養成施策」においては、特に近年の「教員の資質能力向上」に関する施策が説明されたこと、後半のシンポジウムにおいて、「with コロナ時代の教職課程運営と質保証」をテーマとした全私教協・全国 8 地区からオンライン・リレー方式で 2020 年度の教育実習問題の実態について報告が行われたこと、教育実習生を受け入れ側として、神奈川県教育委員会担当者から学校現場での実態についての報告が行われたこと、それらを踏まえて来年度も同様の事態が危惧される状況においては、今年度の対応の検証が必要であること等が報告された。

〔審議事項〕

（１）2021 年度 幹事校・世話人の体制について

山崎事務局長より、資料に基づき、昨秋以降、2021 年度の新幹事校及び新幹事の選出に取り組んできたが、すべての候補大学から快諾いただき、正式の就任は 5 月の総会以降となるが、本日の幹事校会からオブザーバーとして参加いただいたことが報告された。また、2 月 22 日の幹事校会で次期の事務局次長、研究部・広報部の副部長・部員及び各部会の世話人を決定することの提案があり、承認された。

（２）2021 年度 総会・合同研究大会、研究懇話会、研究部総会・研究部会への準備について

山崎事務局長より、2021 年度 5 月の合同研究大会は、隔年開催の慣例により東京地区教職課程研究連絡協議会（略称：東教協）が中心となって企画・運営すること、同協議会関係者と連絡と取りながら、関私教協の定期総会とあわせて必要な準備を進めていきたいこと等が述べられた。引続き、これまで 7 月に開催されてきた関私教協の第 1 回研究懇話会と研究部総会・研究部会に関しては、昨年度幹事校会において見直しの議論および一定の取りまとめがあったので、それらを含めて 2021 年度の新幹事体制の下で再度の議論が必要であること、12 月開催の関私教協単独の第 2 回研究懇話会については、従来どおり開催していく方向で準備が必要であること等が述べられた。

（３）加盟校の退会について

山崎事務局長より、資料に基づき、2020 年 12 月 25 日付け、筑波学院大学より 2020 年度末をもつての退会届が提出されたことの説明があり、承認された。

（４）その他

① 今後の幹事校会について

山崎事務局長より、次のように提案が行われ、決定された。

第 5 回：2021 年 2 月 22 日（月）18：30～（Zoom 形態）

第 6 回：2021 年 3 月 22 日（月）18：30～（Zoom 形態）

② 各部、各部会の会費の清算について

事務局より、2020 年度の各部・各部会の会費の精算については、2 月中旬に領収書・残金の提出依頼することの連絡があり、了承された。

③ 各部・各部会の総会報告資料について

事務局より、2月中旬に総会資料として活動報告の提出依頼を各部・各部会に送付する提案があり、了承された。

【配付資料】

資料1：2020年度 研究懇話会 開催報告

資料2：全私教協理事会報告_2020年度第3回理事会

資料3：2020年度全私教協研究交流会プログラム

資料4：2021 役員大学担当表

資料5：退会届

以 上